

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200824		
法人名	株式会社オストジャパングループ		
事業所名	グループホームいきいき栄		
所在地	札幌市東区北42条東5丁目3番1号		
自己評価作成日	平成27年10月22日	評価結果市町村受理日	平成27年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0190200824-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成27年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、入居者様とゆったりとした生活を心がけ、外出や四季に応じた行事を企画、実施しています。ホームで行う祭りでは地域の方をゲストにお招きし交流をもてるような内容としており、女性部の方にはボランティアとして協力を頂いております。アクティビティの一環として、くもん学習療法を取り入れ個別支援を実施しており、楽しみの一つとなり笑顔ある生活を送って頂ける様、取り組んでいます。緊急時の対応としては、提携している病院より24時間体制で、入居者様の体調管理に携わって頂いています。事業所内、又はグループ内にある他事業所と一緒に研修や交流会を行っており、学ぶ機会を大切にして職員全員が一丸となり入居者様の安全や安心に繋がるケアを目指せるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは開設して十年目を迎えていますが、2014年に運営組織の改革があり、新たな法人として出発しています。デイサービスを併設しており、日頃から避難訓練や行事、相互訪問等で交流があり、それぞれの利用者は馴染みの関係にあります。ホームの夏祭りには町内会婦人部の方々の手伝いがあり、また、地域の小学校からテントを借り、中学生の和太鼓披露もあり、地域の方々の参加を頂いています。職員の入れ替わりがありましたが、新体制の中、職員は運営法人のバックアップを得て利用者や家族、地域の方々と良好な関係を保ち、自分達が出来ることが何なのかを追求しながら、自己研鑽に努めている「グループホームいきいき栄」です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目：23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいの				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいの				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

有限会社 ぷ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、スタッフ間で理念を読み上げ実施できるように努めている	職員は法人理念を共有し、さらに各ユニットは毎月目標を掲げサービスにおける指針としています。会議等で理念や目標が実践されているかを確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭り等を通して地域の方と交流が続けられるよう努めている。又、地域の方がホームにお花や野菜を持って来てくださることがある。	地域の方には年2回ホームだよりを発行し、ホームの理解に繋げています。ホームの夏祭りには小学校からテントを借り受け、町内会の協力や中学生による和太鼓披露があり、利用者は地域の方々と一緒に楽しんでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での様子、取り組みを地域新聞に記載し、情報を提供している			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っており、できている。ご家族や地域の方へ毎回参加を頂ける様、お知らせをしている。	運営推進会議は町内会の方、民生委員、利用者、家族、行政の方々の出席を得て開催しています。事業報告、災害対策、行事等に関する意見交換があります。出された提案を受け、次回の夏祭りはビデオ撮影を計画しています。	ホーム便り等で家族に出席を要請していますが固定化しており期待している出席者構成には至っていません。出席しやすい日時設定や議題の工夫等を検討され、家族のみならず柔軟な出席メンバーへの取り組みに期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が月1回は役所に足を運んだり、確認したことがある時は都度電話連絡をしたりして、顔馴染みの関係を築くように取り組んでいる	本部役員やホーム長は、各種報告や書類提出、相談等で行政の担当者を訪れ、頂いた助言を運営に活かしています。ケースワーカーの来訪時には情報を共有するなど、連携を構築しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス等で資料を配布、マニュアルを振り返る機会をつくる等して理解を深めている。	身体拘束防止に向けて法人やホームのマニュアルを整備し、勉強会等で事例を基に理解に繋げています。不適切な場面が見られたときには、職員間で注意し合える環境作りに努めています。	外部研修や内部研修等で「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」11項目に対する認識を深め、職員の理解徹底に繋がるよう期待します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他事業所の事例をもとにカンファレンスで振り返りをしたり、研修会を開きスタッフの意識を高めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会はあるが、話し合いや活用できるように支援する事には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者から説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、話す時間をつくるようにして意見や要望を開き、反映させている。又、運営推進会議にてご家族に直接お話して頂く機会を設けている。苦情等あれば、都度報告書を作成し、行政に報告している。	家族に利用者の暮らしぶりを面会時や電話、毎月のホームだよりで伝えています。利用者や家族からの要望や意見は関わりの中で傾聴し、出された課題は職員間で話し合いケアサービス時に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と直接話す事も大切にしているが、主に責任者を通じて報告・相談している事が多い。	本部代表者や役員は機会あるごとにホームを訪れ、就業環境の整備に努めています。ホームの役職者と職員は良好な関係にあり、職員は防災委員などを担い持てる力を発揮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年に1回実施している。必ず一人一人の職員と面談を行い、目標や仕事に対しての意識を把握するようにしている。常にやりがいを持って働けるよう目標を振り返る機会を設けるなどして職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象にしたものや責任者を対象にしたもの等、内部研修を定期的に行っている。また、外部研修のお知らせは回覧し、職員に積極的に参加してもらえるよう管理者から声をかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	弊社の他事業所とは研修会や交流会の場を設けて、職員同士が顔を合わせ会話できる機会をつくっている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望等を伺い情報を共有し、それに沿った支援を行える様、努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、家族の要望等も伺い、都度連絡や報告を行い信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を回覧し、情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に日常の家事を手伝って頂いたり、入居者同士の会話の場や歌等を楽しめる場を設けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望を伺う事や家族の希望に沿う様にして、面会や外出、外泊の対応をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に面会に来て頂いたり、毎月詩吟のボランティアの方に来て頂いたりし、良好な関係が継続できるよう支援している。又、初詣や花見などの馴染みのある行事も行っている。	家族や親類、友人の来訪も多く、職員は歓迎しています。利用者はボランティアや他の利用者の家族、併設のデイサービスの職員や利用者の方々とは馴染みの関係になっています。利用者の要望で馴染みの場所を訪れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう入居者同士のコミュニケーションがとれるようスタッフが間に入っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からお電話やお手紙を頂く機会もあり、必要に応じてフォローする事等、実施している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフより本人の意向を直接聞いたり、思いを汲み取れるよう会話の時間を大切にしている。又、家族に確認をして意向の把握に努めている。	職員は利用者との関わりの中で得た言葉や仕草を記録に残しています。意思表示が困難な利用者には家族の情報も参考にして根底にある思いの汲み取りに努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得て、これまでの生活環境を把握しホームでの生活に活かせるように支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を観察し、それを記録したもの、スタッフ間で共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子を記録したものやアセスメントを踏まえて、本人と家族に意向を伺ったものに沿った介護計画を作成している。担当者と計画作成担当者で話し合い作成している。	介護計画は日々の記録や職員の意見、関わりの中で把握した利用者や家族の要望、医療関係者の所見を踏まえ、利用者の現況に沿った内容になっています。日々の記録で介護計画の実施を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を記録していく上で、気づいた事があれば職員同士で意見を出し合い、現状に合った介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望者には、柔道整復師による訪問マッサージを行い、脳を活性化させる学習療法を提供している(読み書き、計算等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	詩吟のボランティアに毎月来ていただいている。年2回ホームから新聞を発行しており地域の方に知って頂けるようにしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけの病院を本人、家族の希望で入居後も継続して受診されている。職員が同行をした場合は、内容を家族に必ず連絡をしている。	1名の利用者が、従来の主治医の診療を受けています。他の利用者は、協力医による月2回の訪問診療と、週1回訪問看護師による全利用者の健康チェックが行われ、服薬は必要最低限に抑えるなど適切な医療支援が行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時は、電話で状況を伝え相談している。受診が必要である場合は、結果も電話にて報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を通して情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期への対応は家族に説明し承諾書を書いてもらっている。職員間で統一したケアやスキルアップを目指す為の研修も行っている。	契約時に重度化や終末期を含む医療体制を説明しています。重篤時には医師から家族に説明があり、あらかじめターミナル介護についての指針を説明し同意書を得ています。看取りに向けて、職員は知識や技術の向上に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはいつでも回覧できるようユニットに保管している。カンファレンス内でAEDの使用方法の研修等を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日常的に日中や夜間を想定した火災避難訓練を実施している。年に2回は全体的な訓練を実施している。地震災害時にはマニュアル作成の準備をしている段階。	年1回消防署の指導の下、併設のデイサービスと合同で日中想定避難訓練を実施しています。さらに運営推進会議開始前に夜間想定自主訓練を行い、出席メンバーの方々の見学を得ています。訓練後に全職員からアンケートを取っています。課題であった地域との協力体制の実現に向け検討が行われています。	停電を含む自然災害の訓練や、防寒対策を含む災害備蓄品の補強等を早期に取り組まれることを期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は敬語を心がけて会話している。アセスメント表を使い情報を集めて一人一人あった話し方や接し方に気をつけている。職員間で統一できる様努めている。	職員は、利用者への対応に当たり羞恥心や尊厳への配慮を心掛けています。名前を呼ぶときには、利用者や家族の希望を受け入れています。排泄チェック表や職員間の連絡時にはイニシャルで統一しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務に合わせるのではなく、声かけを行う事を多くして入居者の意向を伺い、生活して頂く事を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人一人の行動を把握し、その方のペースに合わせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた洋服や本人の着たいものを取り入れている。できる方にはスキンケアや髪を整える事等を行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に給食会議を行い、入居者の要望や感想を伝え献立に活かせる様話し合いをしている。準備や片付けに関しても無理のないよう声かけし行って頂いている。	ご飯以外は配食業者から調理された品が届きます。月に1回、検食簿を基に配食業者と内容について協議しています。時には外食や出前を頼んだり、行事食にはオードブルを注文したり、利用者と一緒に白玉団子を作るなど変化を付け利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事量、禁食のある方に対して代替を用意して提供。水分量もその人に合わせて摂って頂けるようトロミ剤を使用する等している。できる限り自力で食事・水分摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全入居者朝、夕は必ず行い、臥床時も都度行っている。一人一人に合わせた介助をし、必要に応じて歯科医に診てもらおうようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日排泄チェック表を記入している。それを基にアセスメントを行いその方の排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できる様、支援している。	職員は排泄チェック表に沿い、羞恥心に配慮した言葉掛けをトイレに誘導しています。状況によっては複数介助を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の食品を頂いたり、運動をして頂いたりして予防しているが、それでも排便がない場合は、医師や看護師に相談をしてその方に合わせた下剤の調整や処置を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人一人合わせた声かけを行い、気分よく入って頂けるよう努めている。拒否があった場合は、時間をあけたり順番をかえ声かけし希望に沿った支援をしている。	毎日入浴出来る態勢を整えています。週2回以上の入浴を基本としていますが、回数や時間帯は柔軟に対応しています。利用者は職員の支援の下、入浴しています。歌や会話を楽しむ利用者からは要望把握が可能であり、介護計画に反映しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の方や自力での歩行が難しい方は座っている時間が長い為、日中臥床する時間を作り休んで頂いている。又、一人一人の体調に合わせて休息、安眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については主治医と相談しその人に合わせた薬を処方してもらっている。体調や状況で変更があった場合は、職員、家族が共有し確認、理解できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フェイスシート、アセスメント、日々の会話の内容等から、好きな事やできる事把握に努め、行って頂ける様支援している。又、他の入居者との交流を深められるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が希望された時や家族が企画してくださった時に実施できている。	職員の支援の下、利用者は日光浴を兼ね、散歩や買い物、玄関先のベンチでおやつを食べています。家族との外出もありますが、初詣や花見、外食など外出行事を企画し、気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方の居室に保管されている。ほとんどの方はこちらで預からせて頂き、必要に応じて使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望や外部から電話や手紙があった場合は、やり取りできるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、掃除、整理整頓を心がけている。行事等で撮影した写真を掲示しなごみの雰囲気作りに努めている。寒くならないよう、暑くならないよう季節に合わせた温度、湿度調節をしている。	各ユニットは調度品の配置が異なり趣は異なりますが、トイレ、浴室、事務室は、動線を配慮した配置になっています。利用者の腰掛けなど様々な用途に使用される畳敷きの小上がりを設置しています。壁には行事での写真や利用者の作品(塗り絵、習字)を展示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲のよい入居者が一緒に座れるよう大きめのソファを置いたり、一人で好きな場所に行けるよう椅子をたくさん置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使い慣れた馴染みのものを持ってきて頂いている。配置等も家族と話し合い本人の使いやすいように工夫している。	クローゼットが設置されている居室には、利用者や家族の意向でソファやテーブルなど生活用品が持ち込まれています。部屋の向きで温度が低い場合は、新たに電気ストーブを配置するなど、暮らしやすい環境作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に大きな表札をかけ見やすくしたり、トイレに張り紙をしてわかりやすくしている。		